

第2章 まち（都市）づくりの基本方針

1. 土地利用の方針

「緑豊かな田園文化のまち」を支える土地利用

南幌町の将来像である「緑豊かな田園文化のまち」を支えるために、市街地の範囲や住宅地、商業業務地、工業地それぞれの土地利用を定めながら、農地の保全と緑豊かな環境づくりを目指します。

●基本方針

①田園風景を保全するコンパクトな市街地の形成

南幌市街地は、既存の用途地域を将来の市街地の範囲とし、市街地内の未利用地や未造成地については、状況等も踏まえ適切な土地利用（上下水道のインフラ整備の促進を含む）を図ります。

（住宅地の整備と住宅及び民間企業の立地促進、公共公益施設の整備など）工業地の晩翠工業団地と南幌工業団地については、今後とも一般工業地として位置付け、札幌圏に隣接する有利な立地条件を生かした企業誘致に取り組みます。

用途白地地域に位置する夕張太地区の住宅市街地については、農村環境と調和した住宅地としてコミュニティの維持を図ることとし、必要に応じて特定用途制限地域などを定めることにより、豊かな自然環境と景観に配慮した住環境の保全を図っていきます。

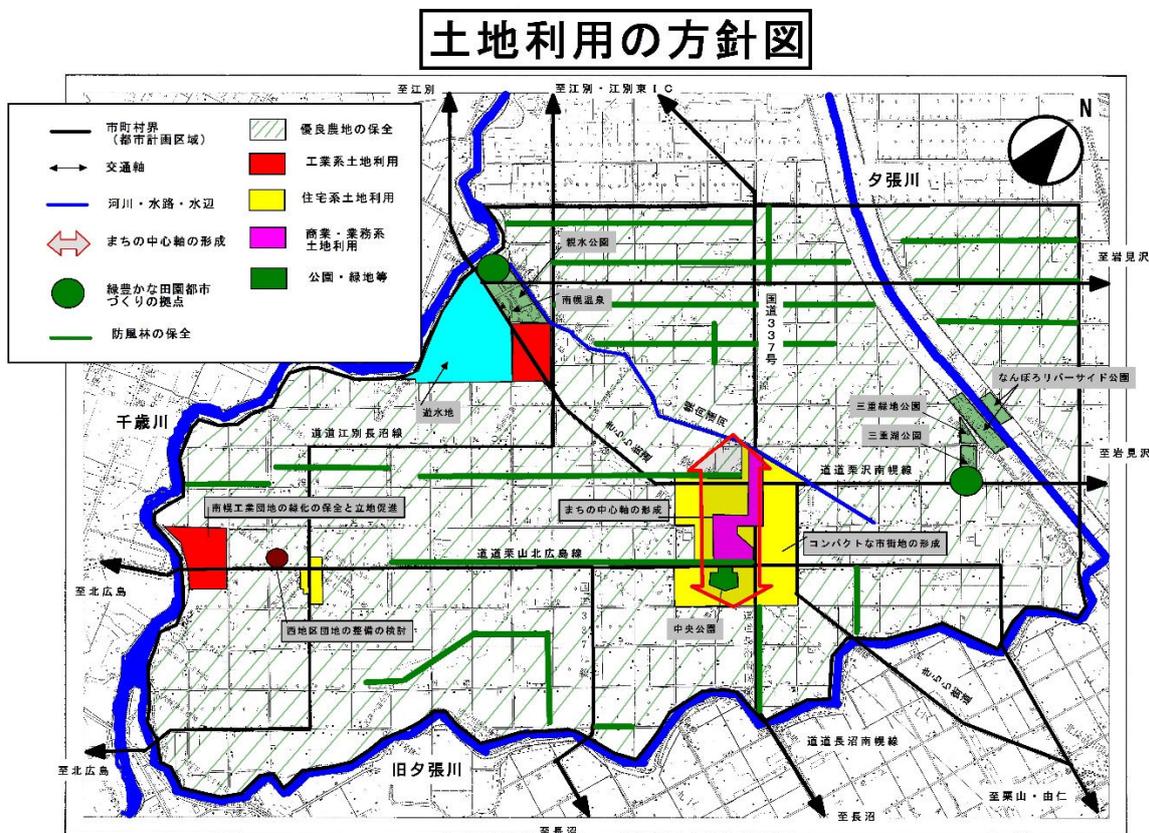
②優良農地とそれを支える緑の保全・整備

集团的農地や土地改良事業等が実施されている区域の農地等については、健全な農業の維持と発展を図るため、今後とも優良な農地としての保全に努めます。また、田園風景と調和した防風林の保全と街路樹の保全・整備に努めます。

③まちの中心軸の形成

集約された既存の公共公益的施設を利活用し、諸機能が集積したまちの中心軸の形成を図ります（高齢者や子育て・若年世帯向けなどの公営住宅、民間事業者との連携による賃貸住宅等、日用品店舗・便利施設などの検討）。

中央通りや公和通りなどの中心市街地の活性化を図るため商店街自らの取組みを支援します。



2. 交通施設の整備方針

「安全で快適な暮らしを支える交通施設の整備」

周辺都市との連携を強化する広域幹線道路網の整備、沿道の街路樹の保全と歩道の整備、公共交通等の利便性の向上などにより、安全で快適な暮らしを支える交通施設の整備を目指します。

●基本方針

①連携を強化する幹線道路網の整備

住民の多くは通勤、通学、購買、通院などの日常生活は札幌市や江別市などの近郊都市に大きく依存していることから、周辺都市との連携を強化する広域幹線道路網の整備と保全に努めます。

(地域高規格道路(道央圏連絡道路)の整備促進、一般国道・道道の整備の促進と保全)。

②町道の維持・保全

将来にわたる安全を確保する事から長寿命化計画により維持・保全に努めます。(道路・橋梁)

③利便性を高める交通施設の整備

町内における公共交通の空白地帯の解消を図るため巡回バスなどを運行し、路線バスとの連携によりきめ細やかな運行に努め、公共交通の利便性を図ります。わかりやすい観光案内標識を利用したサイン計画により円滑な交通誘導を促し、交流の促進を図ります(主要交差点、橋のたもとの空間を利用した案内板の設置の検討)。身近な生活道路の安全性、利便性の向上を図ります(除排雪及び歩道除雪の充実、地域援助排雪事業の普及促進など)。

④幹線道路沿いの街路樹の保全・整備、歩道の整備

幹線道路(メインルート)沿いの街路樹の保全・整備と歩道の整備に努めます。また、南幌市街地と夕張太地区を結ぶ道道栗山北広島線は、地域間の交流促進のため南幌市街地まで導くアプローチとして、幹線道路沿いの防風林についても保全に努めます。

交通施設の整備方針図

